

実例で見てみよう!

## 小さな建築でも豊かな空間は生み出せる

今回取り上げる実例は、京王線調布駅から徒歩約15分、調布市富士見町の甲州街道を少し入ったところにあるFUJIMI LOUNGEという鉄骨造4階（地上3階、地下1階）の元酒屋を改修した小さな建築です。1階が「まちのリビングとカフェ」、2階以上は設計者でもあり、このカフェの運営者でもある建築家・菅原大輔さんが主宰する設計事務所、地下1階が「まちの工作室」となっています。菅原さんは海外の設計事務所に勤務していた頃、ポンピドゥー・センターや関西国際空港旅客ターミナルビル、銀座メゾンエルメスなどを手がけた建築家であるレンゾ・ピアノ（写真1）のパリ事務所1階が模型室（建築模型を制作するための工房）となっており、模型制作のための機械や進行中の建築模型などを通りから見ることができ、そのことに大きな感銘を受けたそうです。それまで都心部のマンションに開設していた設計事務所をこの富士見町

写真1 銀座メゾンエルメスとGinza Sony Park



左が建築家・レンゾ・ピアノによる銀座メゾンエルメス、右が2024年8月に竣工したGinza Sony Park（銀座ソニーパーク）

写真2 FUJIMI LOUNGEを道路側から見る



奥行きが浅い元酒屋を改修したFUJIMI LOUNGEは大きな開口部がそれを感じさせることなく、窓越しの書籍がライブラリーのようにも見え、通りに豊かな風景をつくりだします。

写真3 大きなガラスの開口部



▲通りから見える夜のカフェ。

◀昼間は歩道の緑が窓に映り込みます。

やはりこの大きな開口部がFUJIMI LOUNGEの特徴ともいえるでしょう。建物の奥行きが浅くとも横に流れるようなデザインは昼夜問わず入ってみたいくなる雰囲気を醸し出しています。

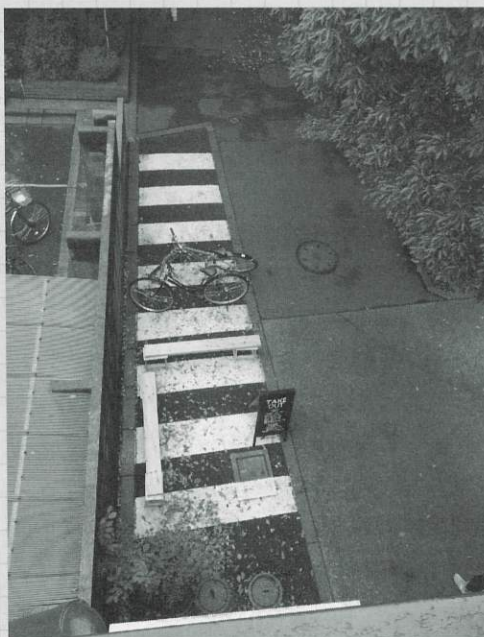
へ移転し、FUJIMI LOUNGEを実現しました。

敷地面積は64.22㎡、建築面積が31.27㎡であり、建蔽率に換算すると48.7%ということになります。このエリアは第一種中高層住居専用地域であり、建蔽率は60%と指定されています。

道路側から見ると周辺の環境に馴染みつつも(写真2)、大きなガラスの開口部と切文字サインが象徴的です(写真3)。建物の奥行きは短いところで2m、一番長いところでも約3m、間口は約12mと数字だけを見ると何とも小さな建築と思ってしまうのですが(写真4)、それを感じさせない空間の豊かさをつくりだしているのが、建築家・菅原大輔の腕の見せ所ではないでしょうか。

この界隈は住宅地であり、このようなカフェは皆無です。買い物や家族で散歩帰りの方、恐る恐る入ってこられる方など様々ですが、この空間の包み込まれるような雰囲気に皆さんホッと一息つきながら、それぞれの時間を過ごされています。

写真4 敷地の奥行



菅原さんの執務室から敷地を見下ろしたところ。セブラゾーンになっているところにはレンタサイクル、そしてベンチが置かれています。小さなスペースも積極的に使っています。



写真7 FUJIMI LOUNGEのキーマカレー



FUJIMI LOUNGEのおすすめはもちろん特製キーマカレーですが、スイーツとドリンクも絶品です。窓越しの緑を見ながらゆったりした時間を過ごしてみたいかがでしょうか。

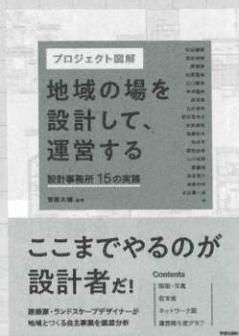
の実践』が学芸出版社より2025年3月に出版されました。ここではFUJIMI LOUNGEはもちろんのこと、建築やランドスケープを仕事にしつつ、飲食店や宿泊施設、銭湯などを運営する設計者たちの事例が数多く掲載されています。

こちら是非手に取ってみてください。

■プロジェクト図解

地域の場を設計して、運営する  
設計事務所15の実践

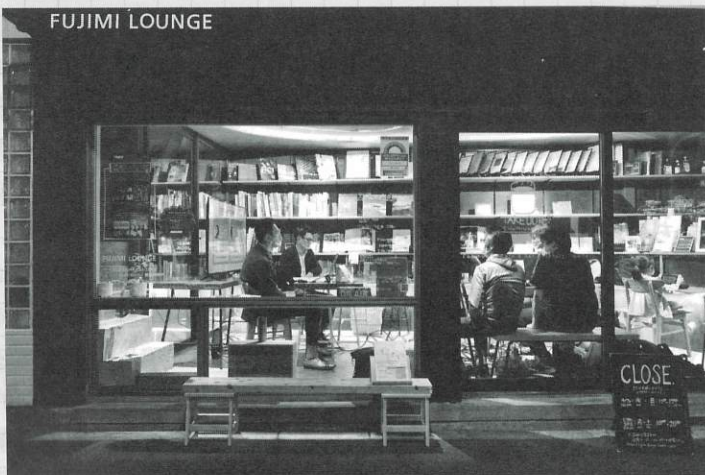
菅原大輔 編著 和田優輝 他著  
学芸出版社 (本体3,000円+税10%)



建築・ランドスケープを仕事にしながら、自身で地域に根差した飲食・宿泊施設、銭湯等を運営する設計者たちの15拠点を図解した書籍。図面や写真を多数収録し、複合用途の計画やまちへ開く居心地の設計手法などを詳細に紹介している。

表紙データ提供：株式会社学芸出版社

写真8 夜の景観



取材協力：SUGAWARADAI SUKE建築事務所

夜の景観をつくることも公共性を持った建築の大切な役目です。周辺が住宅地のこの場所に灯りがともることは住民にやすらぎと安心を与えます。

Profile

高橋 大輔 (たかはし だいすけ)

共立女子大学 建築・デザイン学部 建築・デザイン学科 教授／一級建築士／博士(工学)  
調布市まちづくりプロデューサー、調布市都市計画マスタープラン策定検討委員会委員として、空き家活用を中心とした、調布市空き家エリアリノベーション事業を推進するとともに、東京都大田区をはじめ、鳥取県西伯郡南部町で空き家を利活用した地域住民の居場所づくりを実践的に研究している。著書に『小さなまちづくりのための空き家活用術』『通りからはじまる"まち"のデザイン(空き家活用術2)』(ともに建築資料研究社刊)がある。

